

# 湯沢市の現況

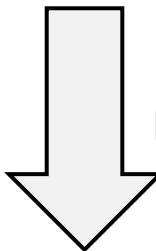
令和7年12月 湯沢市企画課

## 人口の見通し

本市の人口は、昭和30年(1955年)をピークに一貫して減少している。

### 国による令和32年(2050年)の予想

- ・人口は19,552人まで減少する。
- ・年少人口割合は5%を下回る一方で、高齢者の割合は約60%となり、少子高齢化がさらに進む。



### 合計特殊出生率や純移動率の向上

### 湯沢市における令和32年(2050年)の目標

- ・21,057人の人口を確保。
- ・年少人口の割合減少をストップさせ、上昇に転じさせる。

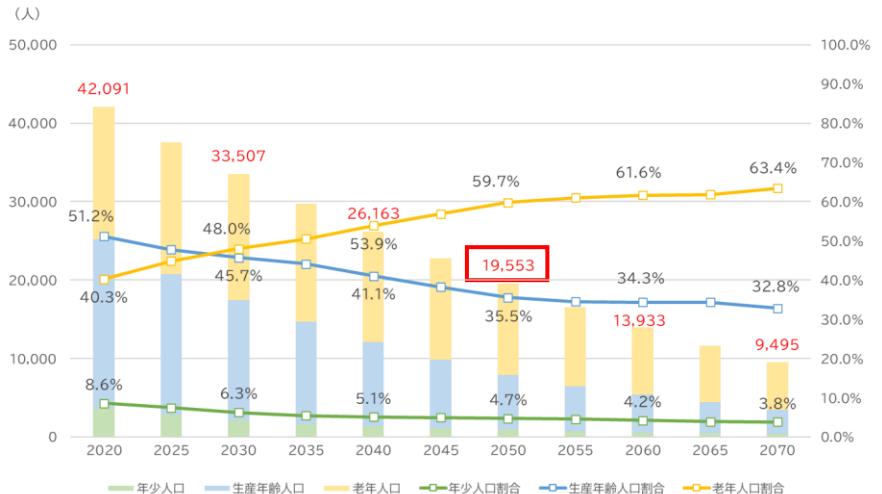


図1 国による将来人口の推計

出典:国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口推計(令和5年推計)」

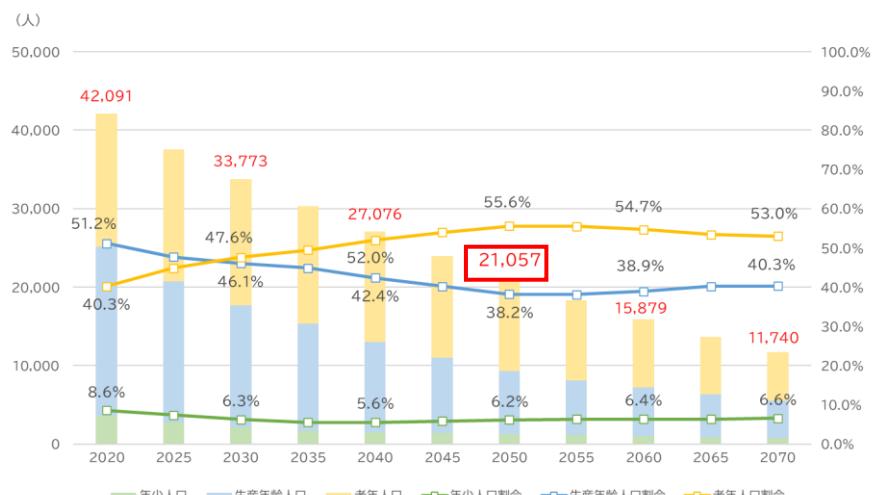


図2 湯沢市人口ビジョンにおける将来人口の推計

出典:湯沢市人口ビジョン(令和7年3月改訂版)

## 本市を取り巻く状況

人口減少と少子高齢化が進展する社会構造、ICTの飛躍的な進歩とビジネス変革、さらにはコロナ禍がもたらした急激な社会変化により、従来の枠組にとらわれない新たな発想による行政経営の展開が急務となっている。

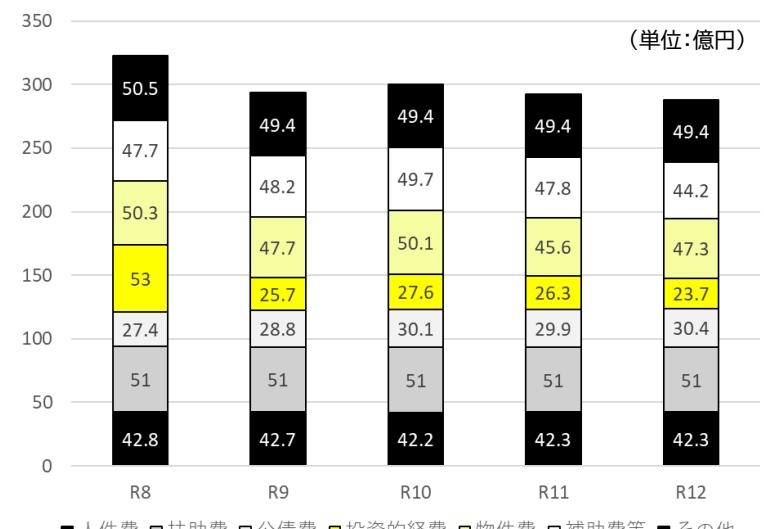
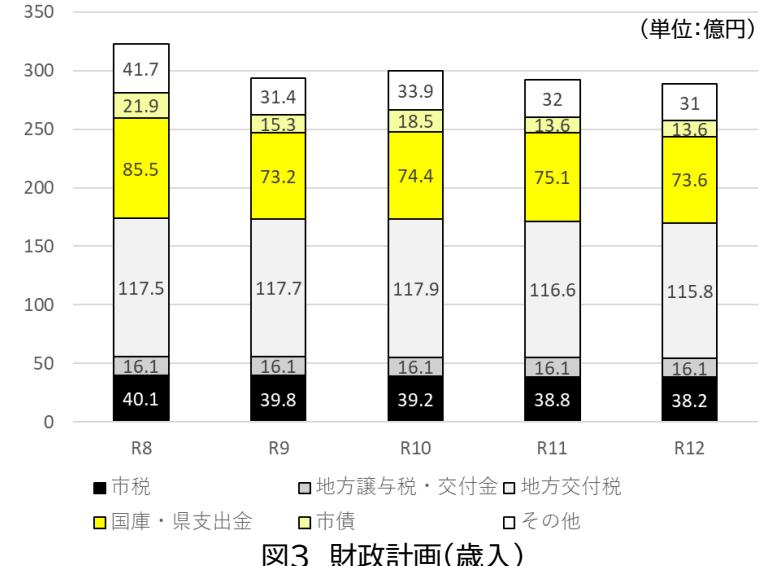
また、地域社会の成熟化にともない、これまで以上に高度化・多様化・複雑化する市民ニーズに対応するため、市民や企業・団体、地域コミュニティと連携・協働しながら、変化に対応したまちづくりを推進していくことが欠かせない。

## 本市の財政状況

歳入においては、自主財源の割合が予算総額に対して小さく、地方交付税や国・県支出金、地方債の借入などの財源に依存する状況が続いている。

歳出においては、一般財源の大半を人件費、公債費、扶助費といった義務的経費や、市政の安定的な運営に欠かせない経常的経費に充てている。

以上の状況を踏まえ、市民サービスの維持・向上を図りながら、健全で持続可能な財政運営を推進するには、短期的な視点、長期的な視点の両面において財政規律の堅持を念頭に、計画的な財政運営が求められる。



## 令和7年度調査概要

実施期間 令和7年5月1日～31日

対象者 湯沢市内にお住いの15歳以上の計1,400名

回収率 34.9%(488件)



表1 満足度順位(上位5施策)

順位	昨年度比較	昨年度順位	施策名	満足度	昨年度満足度
1	→	1	心身の健康を保つ活動の充実	47.3	43.5
2	↑	6	社会インフラの充実	42.0	35.6
3	↑	7	充実した長寿生活の実現	40.5	34.6
4	↑	9	湯沢市への呼び込みとにぎわいの創出	39.9	34.3
5	↓	3	安心な生活環境の構築	39.7	39.7

## 令和7年度調査結果(抜粋)

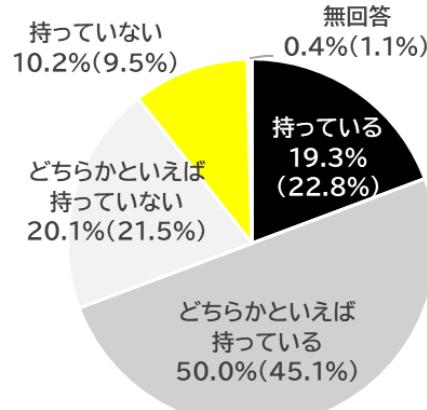


図5 湯沢市に愛着や誇りを持っているか

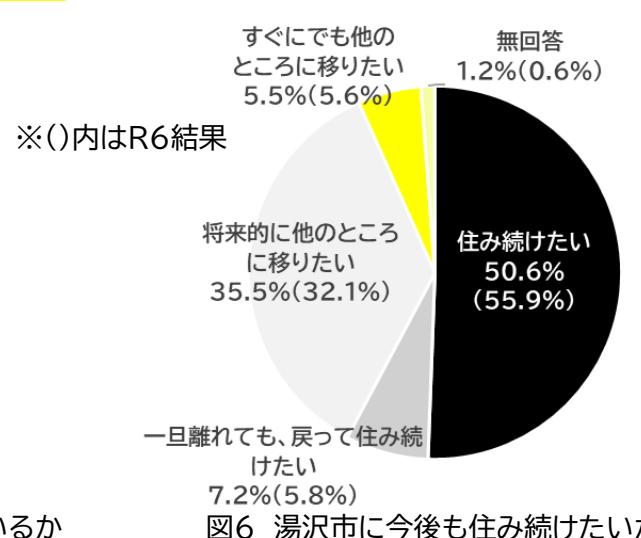


図6 湯沢市に今後も住み続けたいか

表2 重要度順位(上位5施策)

順位	昨年度比較	昨年度順位	施策名	重要度	昨年度重要度
1	→	1	雪国の安心な暮らし対策の充実	89.7	86.3
2	→	2	地域医療体制の確立と経済的負担軽減	81.1	78.7
3	↑	6	防災危機対策の推進	80.2	74.7
4	↑	7	心身の健康を保つ活動の充実	76.0	72.7
5	↑	9	社会インフラの充実	75.5	72.3

## 市民意見～二十歳を祝う会アンケート～

## 令和7年度調査概要

実施日 令和7年8月15日

対象者 二十歳を祝う会参加者

回答数 193件

## 令和7年度調査結果

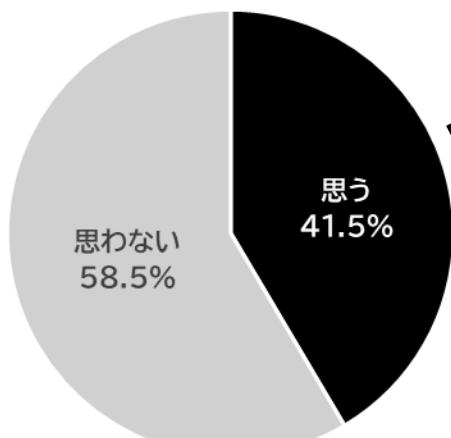


図7 湯沢市に住み続けたい・戻ってきたいと思うか

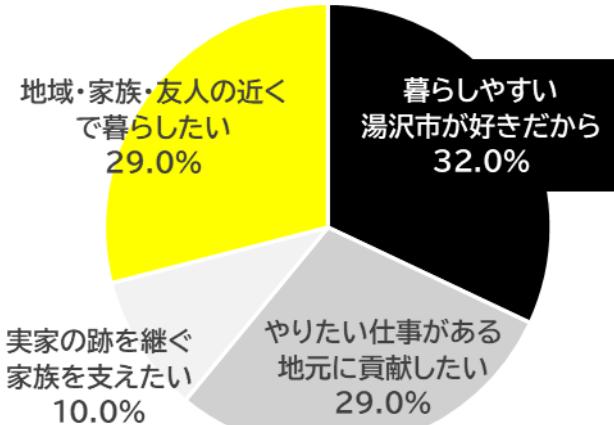


図8 湯沢市に住み続けたい・戻ってきたいと思う理由

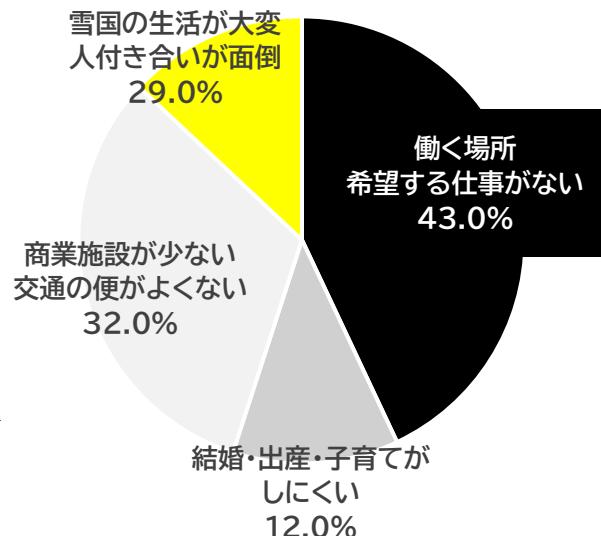


図9 湯沢市に住み続けたい・戻ってこないと思う理由

## ワークショップ概要

実施日 令和7年11月24日

参加者 15歳～74歳の市民 19名  
総合振興計画審議会委員 7名

## ワークショップの内容

- ①市における各分野について、「良いところ」と「残念なところ」を共有
- ②未来における「ありたい姿」を考える
- ③未来を実現するための取り組みを考える

## 結果

表3 未来における「ありたい姿」を実現するために市ができる（共感の多かった意見）

人口減少対策・情報発信	地域づくり・環境	福祉・健康・医療
<ul style="list-style-type: none"> <li>・農産物、産業品、工芸品のSNS発信</li> <li>・LINEを活用した情報発信</li> <li>・子育て世帯への助成</li> <li>・結婚したら100万円配る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの居場所をつくる</li> <li>・持ち主に連絡がとれなくても、空き家を管理する</li> <li>・駅前に道の駅をつくる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療従事者育成の金銭的、精神的サポート</li> <li>・買い物難民をなくす交通</li> <li>・医療費0円</li> </ul>
経済・産業・観光	都市基盤	教育文化
<ul style="list-style-type: none"> <li>・駅周辺をもっと整備する</li> <li>・ジオパークの魅力発信</li> <li>・超臨界地熱発電の市民理解を深める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駅前商店街の活用</li> <li>・公共交通機関の利用促進と充実</li> <li>・パーキングの無料化</li> <li>・帰郷促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国立秋田大学湯沢校の設立</li> <li>・教育の場で文化、伝統を学ぶ</li> <li>・市運営のイベント</li> </ul>